

ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2023年8月

販促・魅力発信

- ALPS処理水に関する風評を抑制・払拭することに加え、三陸・常磐地域の水産業等の本格的な復興や持続的な発展を後押しするため、経済産業省、復興庁、農林水産省にて、2022年12月20日に「**魅力発見！三陸・常磐ものネットワーク**」を立ち上げ。
- ネットワークの取組の一つとして、2023年7月15日（土）から9月30日（土）を「**三陸・常磐ウィークス（第2弾）**」と称し、イベントの実施や、ネットワーク参加企業等による「**三陸・常磐もの**」の消費拡大を実施中。
- 8月12～13日は名古屋城夏祭りに出店し、福島で熱意を持って復興に取り組む事業者様とともに、彼らの熱い想いと、その想いが詰まった魅力的な「食」の発信を行った。

イベントの様子

経済産業省 中部経済産業局
@METI_chb

＼開催報告／

#名古屋城夏まつり の #福島グルメ ブースへお立ち寄りありがとうございました！

今後とも福島復興支援の取組を行ってまいります！

イベントの様子はこちら 🌟 キビタンも登場しました！



三陸・常磐もの
ネットワーク
SANRIKU JOBAN MONO NETWORK



- 三陸常磐エリアの豊潤な海の幸を多くの方に知っていただき、味わっていただくための施策として「**ごひいき！三陸常磐キャンペーン**」を**2022年10月1日より実施**。
- 2023年8月25日から、**福島県を中心に展開する4つのスーパーマーケット「ヨークベニマル」「マルト」「リオン・ドール」「いちい」が、合同で三陸常磐海産物の販促キャンペーンを開始**。
- 今回のコラボレーションを受けて、8月28日には、ヨークベニマル南福島店に、西村康稔経済産業大臣と太田房江経済産業副大臣が訪れ、**三陸常磐の海の幸の魅力を伝える試食イベント**や、**福島県内の流通・小売事業者との意見交換**を実施。

イベントの様子



ヨークベニマル様からのコメント

「地元で生まれ育った各社と協力してオール福島で、お客さまに対して正しい情報をお伝えし、三陸常磐で獲れたおいしい魚介類を安心してご購入いただくためにこのキャンペーンを企画しました。これからもみなさまと協力して拡売していきたい。」

「福島県産の農林水産物は“宝”だと思っています。ほんとうにおいしい宝と生産者を守っていくことが我々小売業の使命のひとつだと思います。西村大臣をはじめ、国を挙げて今回の処理水の放出の件について、安全を担保してもらいました。安全を担保された三陸常磐・福島県産の農林水産物をもっとお客さまのもとへお届けしていきたい。」

詳細レポート



- 三陸常磐エリアの豊潤な海の幸を多くの方に知っていただき、味わっていただくための施策として「**ごひいき！三陸常磐キャンペーン**」を**2022年10月1日より実施**。**全国地上波のテレビ、各地方紙、読売新聞全国紙の全面広告にて掲載**。
- 2023年8月25日から27日の期間、**岩手県を中心に展開するスーパーマーケット「マイヤ」「びはん」**において、三陸常磐海産物の魅力を発信する**トークイベント**(8/25実施)や、三陸・常磐海産物の**店頭販売**、調味料メーカーご協力のもとで**新たなレシピの開発・試食販売の提供等**を実施（**2024年1月まで、毎月第4金・土・日曜日に開催予定**）。
- イベントには気仙沼漁港の仲卸である有限会社マルマタ様も参加され、「カツオをはじめとした鮮度抜群の、最高の三陸産の美味しいお魚を買付してマイヤさんに納品いたしますので、ぜひ宜しくお願いします」と力強いコメントをいただいた。

キックオフイベントの様子



- 2023年8月23日から25日の期間、「ごひいき！三陸常磐キャンペーン」のもと、東京ビッグサイトで開催された日本最大級の水産見本市「**ジャパン・インターナショナル・シーフードショー**」において、一面に「三陸・常磐エリア」を設け、**三陸・常磐地方の事業者の方々の出展をサポート。流通・小売関係事業者等に向けて魅力を発信。**
- 本イベントにおいては、三陸・常磐もの**寿司握り実演イベント**を実施し、来場された流通・小売関係事業者等に三陸・常磐ものを実際に食べていただき試食会は大盛況だった。
- 23日には**西村経済産業大臣が視察**。三陸常磐ブースなどを回り、事業者から説明を受けながら水産品の試食等を行った。

ジャパン・インターナショナル・シーフードショーの様相



- 「しらす」の国内消費を拡大していくため、**関上・常磐産「しらすフェア」を8月1日～31 日の期間で開催**し、経済産業省としても開催を支援。
- 宮城県内（52店舗）において、関上・常磐でとれる「しらす」の特徴を理解し、その特性にあったメニューを各店舗オリジナルで提供している。
- しらすは和洋中どんな料理にも合う万能な食材であり、また、カルシウムやビタミンDが豊富な栄養価の高い食材。中でも関上・常磐で獲れるしらすは新鮮なのが特徴。
- こうした取組を通じ、三陸・常磐地域の水産品・水産加工品の魅力発信を継続していきたい。

しらすフェアの様様



料理長が関上・常磐産しらすの魅力を発信



エシレバターの釜揚げしらすごはん



万願寺唐辛子と茄子の煮浸しかりかりしらす乗せ



じゃこピーマン



しらすとズッキーニのサラダ

- 宮城県にて漁業者団体及び県庁と連携し、**小中学生を対象に県産水産物を使った親子料理教室を開催**。経済産業省も開催を支援。
- 調理・試食を通じて宮城県産の水産物の魅力を伝えるとともに、保護者は「魚の栄養と健康」について、子どもは「耳石」について学ぶ機会を提供し、**若年層に水産業を身近に感じていただく**。
- 第2回(2023年7月29日)、第3回(2023年8月5日)親子料理教室を開催。計12組の親子が参加し、ホヤの吸い物、銀鮭のポシェマヨバタソース、銀鮭とわかめの混ぜご飯をつくって味わった。
- 2024年2月まで月に2回のペースで、「お子様も美味しく食べられる」をテーマに、ご家庭でも手軽に実践できるレシピをお子様と一緒に楽しめる料理教室として開催する予定。

「親子で参加♪宮城の海を味わう！料理教室」の様様



調理風景



銀鮭とわかめの混ぜご飯



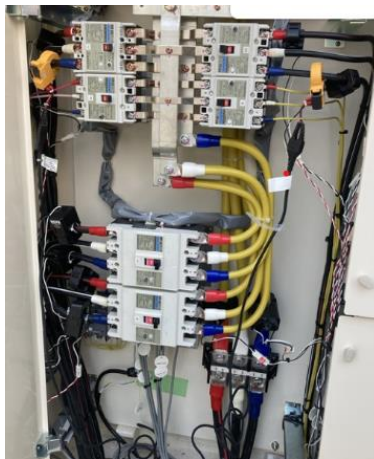
銀鮭のポシェマヨバタソース



ホヤの吸い物

- 連続運転する冷凍設備や空調設備は電力を大量消費しており、昨今の化石燃料価格の高騰も相まって、冷凍設備等を持つ水産加工業者では電気代が高額となっている。
- そこで、**冷凍設備等の省エネを達成するため、冷凍機特化型EMS（EMS（Energy Management System）（※1））の導入等を事例とした電力使用量削減指導、一定価格で電気を購入できるエネルギーサービス契約（PPA（Power Purchase Agreement）（※2））の活用等を事例とした電力料金低減指導**を、宮城県、福島県内企業に実施し、経済産業省が専門家派遣を支援。
- 同様の専門家派遣を、**複数企業に対して実施中**。

専門家派遣電気使用量の計測



現場確認及び指導風景



※1 EMSとは、エネルギーの使用状況を可視化・管理し、エネルギーの運用を最適化することで省エネを行うシステム。

※2 PPAとはエネルギーサービス契約のことです。企業・自治体が保有する施設の屋根や遊休地を事業者が借り、無償で発電設備を設置し、発電した電気を企業・自治体が施設で使うことで、電気料金とCO2排出の削減ができます。設備の所有は第三者（事業者または別の出資者）が持つ形となりますので、資産保有をすることなく再エネ利用が実現できます。（環境省HPより抜粋）

- ALPS処理水の放出に関しては、新たな風評影響の発生についてご懸念の声をいただいていることから**経営・輸出等について事業者の皆様からのご相談を受け付ける体制を整備**。
- 新たな販路開拓など今後の販売先についての相談、資金繰りや経営基盤強化など今後の経営に関する相談できる窓口を中小機構・JETRO等に設置した。

ALPS 処理水の処分に伴う経営・輸出等の対策に関する特別相談窓口の設置及びアドバイザーの派遣の概要

1. 特別相談窓口の設置

中小企業基盤整備機構（全国の地域本部及び沖縄事務所）、日本貿易振興機構（ジェトロ）（本部、大阪本部、全国の事務所）及びよろず支援拠点（北海道、青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県及び千葉県）の地域）に特別相談窓口を設置します。

また、日本政策金融公庫・沖縄振興開発金融公庫（全国の支店）、商工組合中央金庫（全国の支店）、信用保証協会（全国の協会）に、特別相談窓口を設置し、資金繰りに関する相談を受け付けます。なお、本窓口の設置等により、日本政策金融公庫が実施するセーフティネット貸付及び農林漁業セーフティネット資金の要件を緩和し、支援対象を ALPS 処理水の放出により今後の風評影響が懸念される事業者にまで拡大します。

2. アドバイザーの派遣

中小企業基盤整備機構北海道本部、東北本部（福島支援センター含む）及び関東本部は、アドバイザーを派遣し、事業計画の策定や販路開拓等に関する相談及びアドバイスをを行います。



（参考）特別相談窓口のページ

https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/hairo_osensui/pdf/tokubetsusoudan.pdf

- 8月17～19日、ジェトロは**香港にて開催された食品総合見本市 Food Expo PRO 2023 にジャパンパビリオンを設置**。
茨城県、千葉県の8社・団体を含む計41社・団体が出展し、来場バイヤーとの商談を支援した。
- このほか、輸出促進プラットフォーム事業としても茨城県・千葉県の4社を含む11社・団体が出展し、同様に来場バイヤーとの商談を支援した。

Food Expo PRO 出展概要

<見本市概要>

- ・会 期：2023年8月17日（木）～19日（土）
- ・会 場：香港コンベンション&エキシビション・センター
- ・主催者：香港貿易発展局
- ・出展者数：約1,800社
- ・来場者数：約480,000人

<JETROによる出展概要>

- ・ジャパンパビリオン
出展者数：41社・団体
- ・輸出促進プラットフォーム
出展者数：11社・団体
- ・茨城県、千葉県からの主な出品物
調味料、加工食品、菓子、酒類

会場の様子



ジャパンパビリオンの様子



出品者と来場バイヤーとの商談の様子

- 8月23～24日、食品見本市 **アグリフードEXPO会場内でジェトロ食品輸出商談会を実施**。世界18か国19名の海外バイヤーと国内132社のサプライヤーが参加し、日本産農水産物・食品の輸出に向け、延べ207件の事前アポイントメントによる商談を行った。**海外バイヤー14名が水産品・水産加工品の調達を希望**。
- 商談に参加した企業のうち、**水産品・水産加工品を扱っているのは31社**。そのうち**青森県、宮城県、茨城県、千葉県の水産企業5社がそれぞれ海外バイヤーと商談を行った**。

参加バイヤー（18か国・19名）

バイヤー招へい 事前マッチング型商談会 開催概要

◆JETRO食品輸出商談会 at アグリフードEXPO/ インターナショナル・シーフードショー 概要

- ・会期：2023年8月23日（水）～24日（木）
- ・会場：アグリフードEXPO内 ジェトロ商談会場
（東京ビッグサイト 東4ホール）
- ・参加事業者数：132社
- ・商談件数：207件

- ➡そのうち、水産品・水産加工品企業：31社
- ➡そのうち、青森(2)、宮城(1)、茨城(1)、千葉(1)（社数）

<商談実施例（バイヤー関心品目）>

- 青森県 企業 × **メキシコ** バイヤー（ホタテ、ホタテ加工品）
- 青森県 企業 × **アラブ首長国連邦** バイヤー（ホタテ加工品）
- 宮城県 企業 × **オーストラリア、カンボジア、スロバキア** バイヤー
（魚介全般、ホタテ、ホヤ）
- 茨城県 企業 × **オーストラリア** バイヤー（ししゃも）
- 千葉県 企業 × **インド、ペルー** バイヤー（海苔）



オーストラリアバイヤー商談風景



メキシコバイヤー商談風景

- 8月25日、**ジェトロの招へいした海外バイヤーで、特に水産品・水産加工品の調達に関心のある9名のバイヤーが、東京ビッグサイトで開催されたジャパン・インターナショナル・シーフードショーを訪問。事前アポイントメントなしで、自由に出展ブースを巡覧しながら商談。三陸常磐、宮城県のブースなども訪問。**
- 8月26日、**豊洲市場を訪問。マグロや鮮魚のセリの視察、水産仲卸業者との情報交換、交流会を開催。また、東日本大震災復興支援の一環として、プロの目利きで選んだ三陸常磐の鮮魚を販売する小売店舗「三陸常磐 夢市楽座」（主催：東京魚市場卸協同組合）を訪問。**

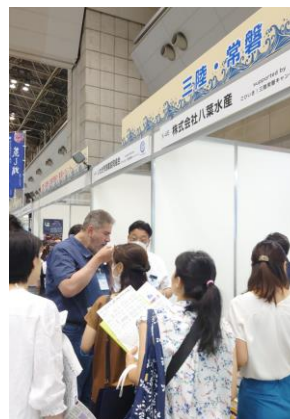
バイヤー招へい 展示会巡覧型 商談会概要

◆ジェトロ招へいバイヤーによるシーフードショーでの自由商談

- ・実施日：2023年8月25日（金）
- ・場所：第25回ジャパン・インターナショナル・シーフードショー（東京ビッグサイト 東5・6ホール）
- ・参加バイヤー：9名
（米国、メキシコ、スロバキア、スウェーデン、カンボジア、インドネシア、ベトナム、オーストラリア、アラブ首長国連邦）

豊洲市場視察

日時： 8月26日（土） 4:30～10:00
 場所： 東京都中央卸売市場豊洲市場
 参加バイヤー： 10名
 内容： マグロ・鮮魚のセリ見学、仲卸業者との交流、三陸常磐水産品の店舗「夢市楽座」訪問



←（左2枚）
メキシコ、ベトナムバイヤーの
三陸常磐・宮城県ブース訪問風景

↓（下3枚）豊洲市場視察
水産仲卸の店舗訪問
サンプル試食による意見交換会



- 8月19日、「カラフル魚拓とおさかな料理教室」をいわき魚類（株）が開催した。福島相双復興推進機構も開催を支援。
- 本イベントは、子どものうちから“常磐もの”への愛着を醸成し、ファンになってもらうことを目指して開催。いわき市内の親子6組21名が参加し、水揚げされたばかりの“三陸・常磐もの”の魚に絵の具で色付け、布に魚拓する「カラフル魚拓体験」と、親子で“常磐もの”の魚を捌いて調理をする「おさかな料理教室」を実施した。
- イベント会場には県内のTV局、新聞社が取材。同日「news every」でも放映。
- 本イベントは9月2日にも開催予定。（参加者の募集は締切済み）

カラフル魚拓とおさかな料理教室の様子



■ 子どもたちからは「みんなと協力していい作品ができた！」「直接魚に触れて、調理できて、おいしかった！」との元気な声があった

- 8月1日～8日の8日間、JR仙台駅の2階 ステンドグラス前催事場で開催された「東北物産展」に、福島県の水産加工品の販売会である「常磐大漁市」を出店。
- 本イベントでは、福島県漁連をはじめとした**福島県の水産加工業者10社、38商品を販売**。また、5・6日にはマルリフーズの「かけるあおさ」の試食を実施。試食いただいた方にはアンケートにご協力いただいた。
- 9月上旬にも東京都内にて催事出店を予定。

常磐大漁市 東北物産展in仙台駅

- 2日間で約330人分の試食を実施、約200のアンケートを回収。
- 「美味しい」「お土産だけでなく、自分用にも」「イメージしていた味や食感と違って面白い」などの声を頂いた。



試食の様子



- 中小機構では、リアル開催で実施した「地域活性化パートナー連絡会」にて**パートナー企業に三陸・常磐ものネットワークの周知を実施した。**
- また、小売・卸、EC・通販等の民間事業者である「地域活性化パートナー企業」と連携し、**販路開拓に向けた「地域活性化パートナー企画」を立案、商品募集等を実施。**「地域活性化パートナー企画」及び中小機構のサポートメニューをより効果的に活用頂くために、**パートナー企画オンライン説明会「販路開拓サポートDAY 夏」を開催した。**
- **水産加工品を取扱う北海道1社、福島県1社が参加し、**直接、パートナー企業の担当者による商品募集企画等の情報を収集した。

広報活動の実施（7/25）

◆企画概要

・開催日時：

2023年7月25日（火） 15:00～17:30

・参加対象者：

地域活性化パートナー企業56社87名

・費用：参加無料

◆地域活性化パートナー登録企業一覧

https://www.smrj.go.jp/sme/new_business/product/index.html



「販路開拓サポートDAY 夏」

◆企画概要

・開催日：

2023年8月3日（木） 2023年8月4日（金）

・参加対象者：

全国の中小企業及び中小企業支援機関担当者等

・開催方法：Zoom

・費用：参加無料



- 中小機構の中小企業大学校（東京校）の食堂にて100食限定で、**三陸・常磐ものの食材を使った特別メニューを提供した**。また、食堂内には、三陸・常磐ものの説明用POPや観光パンフレットを設置し、周知活動を実施した。
- 加えて、中小機構の会議・懇親会において、**三陸・常磐もののネットワーク弁当を購入し、「三陸・常磐もの」の消費拡大を実施した**。

8/3 中小企業大学校（東京校）食堂にて消費拡大の取組

◆企画概要

- ・開催日時：2023年8月3日（木） 昼食
- ・中小機構は、食堂運営事業者の「株式会社ニッコトラスト」様と協力し「三陸産さんま蒲焼き丼」の提供、三陸の自治体のパンフレットの配布などを行うイベントを実施

株式会社ニッコトラスト

<https://www.nikkokutrust.com/corporate/outline.html>



▲食堂の様子



▲特別メニュー



▲パンフコーナー

中小機構の消費拡大の取組（7/3、7/10）



▲7/3の歓送迎会の様子



▲7/10の歓迎会の様子



▲宮城県産銀鮭のお弁当



▲金華サバの塩焼き御膳

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ ふくしま」の取り組みの一環として、9月1日～12月15日に、福島県産品ECサイト「ふくしま市場」と大丸松坂屋百貨店の「オンラインストア」と連携し、**福島県産食材を使用した「2024 ふくしま初夢おせち」の予約販売を開始**する。
- また、8月11日～9月20日、**インドネシア共和国のグランドラッキー社が経営する「ブラスタギ・ザ・スーパーマーケット」3店舗にて、福島県産「桃」の販売フェアを開催**している。インドネシアでの「発見！ ふくしま」フェアは初開催となる。

2024ふくしま初夢おせち販売（9/1～12/15）

- ECサイト「ふくしま市場」オンラインストア、うつくしま良品本舗カタログ
大丸松坂屋百貨店オンラインストア
販売期間：9月22日（金）～12月17日（日）
- 大丸東京店、松坂屋上野店 店頭承り
販売期間：10月4日（水）～12月17日（日）
- 販売価格：29,000円（税・送料込）



▲ふくしま初夢おせち（イメージ）



▲書道家 千葉清藍氏監修
の上蓋(イメージ)

福島県の逸品勢ぞろい
ふくしま市場



大丸松坂屋
ONLINE STORE



インドネシア共和国「発見！ ふくしま」フェア（8/11～9/20）

- 日程：8月11日（金）～9月20日（水）
- 場所：インドネシア共和国「ブラスタギ・ザ・スーパーマーケット」3店舗



▲会場の様子

- 6月16日～8月20日、シンガポールの日本食専門の飲食モール「Itadakimasu by PARCO」の6店舗にて、「発見！ふくしまフェア」を開催した。福島県産食材を使用した特別メニューを約600食提供するとともに、福島県産米「天のつぶ」パックライスの試食提供を行った。
- また、8月3日～20日の18日間、JA全農福島と連携し、タイ・バンコクの高級百貨店やスーパー5店舗にて、福島県産「桃」の試食販売イベントを開催し、約15,000個を販売した。

シンガポール「発見!ふくしまフェア」(6/16～8/20)



▲会場の様子



▲特別メニュー「県産野菜の
カレー」と「メヒカリ唐揚げ」

タイ・バンコク ふくしまの桃イベント (8/3～20)



▲会場の様子



▲店頭に並ぶ福島県産の桃

- 8月19日～20日の2日間、松坂屋上野店に隣接する「おかちまちパンダ広場」で盆踊り大会を開催し、約14,000人が来場。屋台では、福島県産食材を使用したメニューを提供した。
- 8月19日～20日の2日間、郡山市の21世紀記念公園 麓山の杜で開催された「ふくしまフードフェス2023」でキッチンカーを出店し、「常磐もの」あんこうバーガーやメヒカリの唐揚げを提供した。
- 8月19日～20日の2日間、道の駅ふくしまで、福島県産品食材を味わえるバーベキューイベントを開催した。施設内飲食店では、「旬の桃」を使った「発見！ふくしま」特別メニューを提供した。

「発見！ふくしま」夏まつり（8/19～20）



▲会場の様子

ふくしまフードフェス2023（8/19～20）



▲会場の様子

夏のふくしまBBQまつり（8/19～20）



▲会場の様子

理解釀成

- 本年8月19日に**檜葉町で開催された「ならは百年祭」**において、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明をするとともに、パンフレットの配布を行った。

ならは百年祭の様子



- 本年8月20日に**檜葉町岩沢海水浴場で開催された「岩沢サーフィンゲームス」**において、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展。選手として参加したサーファーの方々や一般の観客の方々に、福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明をするとともに、パンフレットの配布を行った。

岩沢サーフィンゲームスの様子



■ 先月公開したIAEAの包括報告書の内容をまとめたページについて、Yahoo!JAPANのトップページにバナー広告を引き続き掲載。

IAEAの包括報告書の内容をまとめたページ

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

- 1 ALPS処理水って何？
本当に安全なの？
- 2 トリチウムって何？
- 3 なぜALPS処理水を
処分しなければ
ならないの？
- 4 本当に海洋放出しても
大丈夫なの？
- 5 近海でとれた
魚は大丈夫なの？

ALPS処理水に係る
モニタリング

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

Twitter Facebook LINE Email

トップページ > 安全対策・風評対策の取組 > IAEAがALPS処理水海洋放出の安全性を確認

安全対策・
風評対策の取組 > 関連コンテンツ >



IAEA包括報告書
国際機関によるALPS処理水海洋放出の安全性確認

国際原子力機関IAEAから、ALPS処理水の海洋放出について、国際安全基準に合致していること等を結論付ける「包括報告書」が本年7月4日に公表されました。

本ページでは、このIAEAの包括報告書の内容について解説します。

ポイント

○IAEAは原子力分野について専門的な知識を持った権威ある国連の関連機関（安全基準を策定・適用する権限を保有）であり、専門的な立場から第三者としてレビュー（検証）を実施

Yahoo!JAPAN バナー広告

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

国連の関連機関
IAEAは
何を確認したの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

国連の関連機関
IAEAは
今後関わるの？

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

ページはこちら



- **IAEAの包括報告書の内容**をまとめた広告（全面）を、**地元紙（福島民報、福島民友、河北新報、岩手日報、茨城新聞）**に8月中旬に掲載。（7月の掲載に続き2回目）

新聞への広告掲載内容（スペースの関係で上部のみ）

ALPS処理水の海洋放出の安全性が 国際的な第三者機関によって確認されました。

広告

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

ポイント

- IAEA（国際原子力機関）は原子力分野について専門的な知識を持った国連の関連機関（安全基準を策定・適用する権限を保有）であり、専門的な立場から第三者としてレビュー（検証）を実施
- レビューの結果として、ALPS処理水の海洋放出は「国際安全基準に合致」し、「人及び環境に対する放射線影響は無視できるほどである」といった結論が盛り込まれた包括報告書を本年7月4日に公表
- IAEAは、放出中・放出後についても長年にわたってALPS処理水の海洋放出の安全性確保にコミット

包括報告書の概要

7月4日、ALPS処理水の海洋放出に関するレビューを総括する報告書がIAEAから公表されました。
包括報告書には主に以下の結論が記載されています。

WEBでも概要を
紹介しています



グロッシーIAEA事務局長コメント

- この包括報告書は、国際社会に対し、処理水放出についての科学的知識を明確にした
- 処理水の最後の1滴が安全に放出し終わるまでIAEAは福島にとどまる
ただとどまるだけではなく、実施状況をレビューし、点検・確認をしていく



出典：IAEA

人と環境 への影響	■ALPS処理水の放出は、人及び環境に対し、無視できるほどの放射線影響になる。 ・放射線環境影響評価を国際基準に適合して実施されている。 ・ソースターム（放出前に評価するALPS処理水中の放射性物質の種類）は、十分に保守的かつ現実的。 ・国際水域は、海洋放出の影響を受けないため、越境影響は無視できるほど。
設備とプロセス の健全性	■ALPS処理水の放出を制御するシステムとプロセスは堅固である。 ■緊急遮断弁や放射線検出器などが重層的にシステムに組み込まれている。

IAEAレビュースケジュール

2021年

- 4月 政府は、ALPS処理水の処分に関する基本方針を決定
 - 7月 ALPS処理水の処分に関するIAEAとの付託事項に署名
 - 9月 IAEA担当幹部が訪日（事実上のレビュー開始）
 - 12月 萩生田大臣（当時）とグロッシー事務局長のオンライン会談
- 2022年

全体版はこちら



- 本年5月に公開した、「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。8月末時点で計400万回以上再生。（動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。）

1分程度でわかりやすく解説する動画



- ① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？



- ② トリチウムって何？



- ③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？



- ④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？



- ⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

- 2023年8月、西村経済産業大臣出席の下、**小売関係の業界団体**（※）と、経済産業省の担当部局からなる「**ALPS処理水の処分に係る風評対策・流通対策連絡会**」を開催。

（※）日本チェーンストア協会、一般社団法人全国スーパーマーケット協会、一般社団法人日本スーパーマーケット協会、一般社団法人日本ボランティアチェーン協会、オール日本スーパーマーケット協会、一般社団法人日本百貨店協会

- 西村大臣から、ALPS処理水の海洋放出について、政府として安全性の確保や透明性の高い情報発信に取り組んでいくことなどを述べた上で、小売業界に対して、**三陸常磐ものの変わらない取扱いや、三陸常磐ものの魅力発信・販売促進への協力を依頼**した。
- **小売業界からは、「ALPS処理水の海洋放出が開始された後も、三陸常磐ものをこれまでどおり取り扱っていききたい」という考え方をお示しいただいた。**また、国際機関等の第三者による安全性の厳格な確認や、トリチウムを含むモニタリング結果の公表、安全性についての統一的な説明資料の作成などの対策に、引き続き取り組んでほしい旨、要望いただいた。

連絡会の様子



- 2023年8月24日、**卸や小売等約230の団体に対して、ALPS処理水の海洋放出に伴う風評影響の防止・抑制に向けた協力**についての**通知文**を、復興庁・農水省・経産省の大臣連名で発出。
- 海洋放出が行われたことをもって**買いたたき等を行わないことや、魅力発信・消費拡大に協力いただきたいこと**を要請するとともに、**モニタリング情報**の参照先、**取引に関する相談先や個別施策の問合せ先**の周知、**取引先や消費者からの問合せがあった場合に活用できる資料等**の紹介を行った。

復 本 第 1 6 9 5 号
5 地 第 1 9 9 号
2 0 2 3 0 8 2 1 資 第 8 号
令 和 5 年 8 月 2 4 日

各卸売業者団体の長 殿
各仲卸業者団体の長 殿
各小売業者団体の長 殿
各外食業者団体の長 殿
各中食業者団体の長 殿
各加工業者団体の長 殿
各宿泊業者団体の長 殿

復 興 大 臣
農 林 水 産 大 臣
経 済 産 業 大 臣

ア・プ・ス
ALPS処理水¹の海洋放出に伴う風評影響の防止・抑制に向けた協力について
(周知依頼)

政府は、令和3年4月に、ALPS処理水を海洋放出する方針を決定し、本年8月には、政府としてALPS処理水の処分が完了するまで安全確保、風評対策・なりわい継続に全責任を持って取り組むことを確認した上で、海洋放出を開始することとしました。

本年7月に公表された国際原子力機関（IAEA）の包括報告書において、ALPS処理水の海洋放出に対する取組は、関連する国際安全基準に合致しており、ALPS処理水の海洋放出は、人及び環境に対し、無視できるほどの放射線影響となることが結論として示されているとともに、放出開始後もレビューやモニタリングを実施していくこと等が記

通知全文はこちら



- **2023年8月3日、欧州連合（EU）、EFTAに加盟するノルウェー及びアイスランド**が、東京電力福島第一原発事故の発生後から日本産食品に課してきた**輸入規制をすべて撤廃**した。
- **2023年8月15日**、残りのEFTA加盟国である**スイスとリヒテンシュタインも日本産食品に対する輸入規制を撤廃**した。
- ALPS処理水海洋放出を理由として、一部の国・地域で規制強化の動きが見られる中、**EU及びEFTAによる科学的根拠に基づく規制撤廃の判断は、風評を抑制し、被災地の復興を後押しするものであり、日本として評価**。
- 引き続き、各国・地域への働きかけを実施。

規制措置の内容／国・地域数			
事故後に 輸入規制 を措置	規制措置を撤廃した国・地域		48
	輸入規制を継続 して措置	一部又は全ての都道府 県を対象に検査証明書 等を要求 (仏領ポリネシア、ロシア)	2
55	7	一部の都県等を対象に輸 入停止 (中国、台湾、香港、韓 国、マカオ)	5

▲ 諸外国・地域の食品等の輸入規制の状況（2023年8月15日時点）

- **2023年7月31日**、日本政府が東京電力福島第一原子力発電所（東電福島第一原発）の**ALPS処理水に係る太平洋島嶼国（PIF）との対話に関する報告書を公表**。
- **本報告書において**、政治的対話については、「ALPS処理水の海洋放出は、自国民及び太平洋島嶼国の国民の生活を危険に晒し、人の健康及び環境に悪影響を与えるような形での放出を認めることはない」ことを含み、**我が国の立場を、PIF加盟国・地域に対して伝達してきていることに言及**。
- **2023年8月3日**、太平洋島嶼国（PIF）加盟国である**フィジー共和国のランブカ首相より**、「**IAEAの報告書は、私たちの貴重なブルー・パシフィックの生命や生態系に悪影響を及ぼす海洋環境の悪化に対する懸念を払拭するのに十分な安心感を与えるものです**。」「私は、IAEAがこの水の放出が私たちに害を与えないことを保証するために、**日本のこのプロセスを継続的に監視し、過去10年間取り組んできたことに満足しています**」とのビデオメッセージが発信された。



▲ランブカ・フィジー首相によるFacebookを通じたビデオメッセージの発信

- **2023年8月15日、ブリンケン・米国国務長官**は、記者会見で、ALPS処理水についてに問われ、「我々は**日本の計画に満足している。日本の計画は安全で、IAEAの安全基準含め国際基準に沿ったもの**。日本は放出計画についてIAEAと緊密かつ積極的に連携しており、計画は科学的根拠に基づき透明性を持ったプロセスであり、我々はそれに満足している。」と回答し、**支持を表明した**。



▲会見をするブリンケン・米国国務長官

- **2023年8月15日、16日、アメリカが主催するAPECエネルギー大臣会合がアメリカ・シアトルにて開催され、経済産業省から太田経済産業副大臣が出席した。**
- 太田経済産業副大臣からは、福島第一原子力発電所の廃炉の取組を科学的根拠に基づき進めている旨を説明した。
- **ALPS処理水の海洋放出について**、先月公表されたIAEA包括報告書において、国際基準に合致し、人や環境に対し、無視できるほどの放射線影響との協議が示されたことを紹介しつつ、**ALPS処理水の対応が科学的根拠と国際基準に基づき進められていることを国際社会に説明してきた旨を発言し、その上で、透明性をもって引き続き対応していく旨を表明した。**



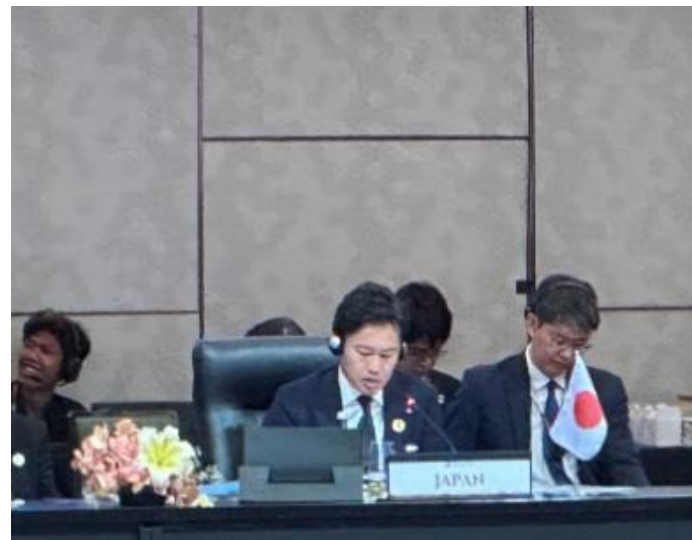
▲APECエネルギー大臣会合の様子



- **2023年8月21日、22日、中谷経済産業副大臣は、インドネシアのスマランを訪問し、「日ASEAN経済大臣会合」等の経済大臣関連会合に出席した。**
- その関連会合において、22日に、この1年間の日ASEAN経済協力の進捗について議論する「日ASEAN経済大臣会合」、ASEAN加盟国及び日中韓が参加する「ASEAN + 3 経済大臣会合」が開催。
- それらの会合において、**中谷経済産業副大臣より、ALPS処理水の海洋放出について、先月公表されたIAEA包括報告書において、国際基準に合致し、人と環境に対し、無視できるほどの放射線影響との結論が示されたことを説明した。**



▲日ASEAN経済大臣会合の様子



▲ALPS処理水の海洋放出について説明する中谷経済産業副大臣

- 2023年8月20日、21日、里見経済産業大臣政務官は、アメリカのシアトルを訪問し、APEC中小企業大臣会合に出席した。
- その会合において、ラーゴ・米国商工省次官とのバイ会談を行った。
- 会談において、里見経済産業大臣政務官より、**米国政府のALPS処理水の海洋放出についての支持について感謝するとともに、引き続き日本の方針に対して支持いただくよう働きかけ**を行った。



▲ALPS処理水の海洋放出について説明する里見経済産業政務官



▲ラーゴ・米国商工省次官とのバイ会談の様子

- **2023年8月7日、16日**、東京電力福島第一原子力発電所（東電福島第一原発）のALPS処理水の取扱いに関する**韓国政府向け説明会（於：東京）を開催**。
- 7月25日の説明会におけるやり取りを踏まえ、技術的な事項に関して、日本側から関連の補足説明や追加的な情報提供などを行い、出席者間で質疑応答を行った。
- 日本としては、今後も関係省庁等が一体となって、ALPS処理水の安全性や東電福島第一原発の状況についての情報を国際社会に対して透明性をもって丁寧に説明していく。

■出席者

（8月7日）

日本側：湯本啓市経済産業省資源エネルギー庁原子力災害対処審議官
外務省、原子力規制庁、東京電力 等

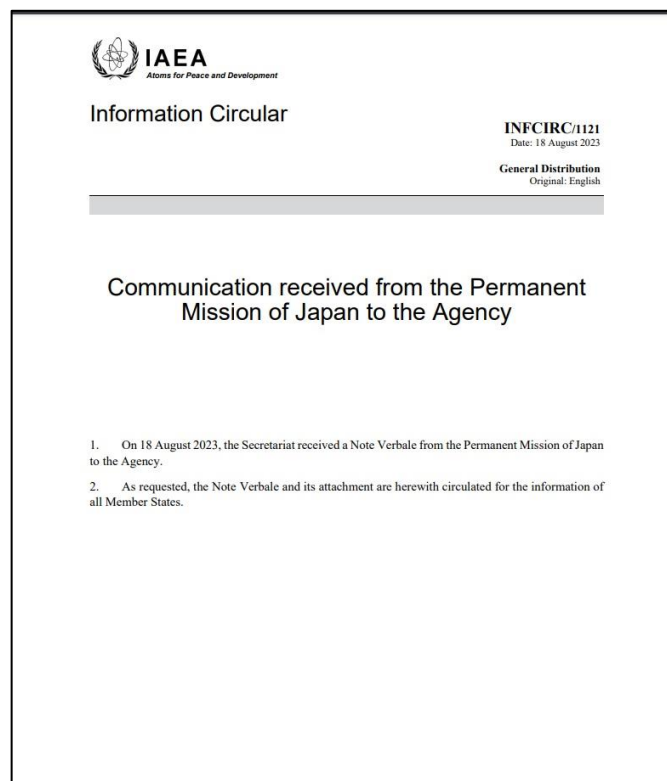
韓国側：キム・ソニョン国際経済局審議官 等

（8月16日）

日本側：湯本啓市経済産業省資源エネルギー庁原子力災害対処審議官
外務省、原子力規制庁、東京電力 等

韓国側：キム・ソニョン国際経済局審議官 等

- 2023年7月31日、**日本政府は、東京電力福島第一原子力発電所のALPS処理水の海洋放出に関する中華人民共和国及びロシア連邦からの共同質問状を受領した。**
- 2023年8月18日、**日本政府として中華人民共和国及びロシア連邦からの共同質問状への回答を行った。**
- 過去2回、中華人民共和国及びロシア連邦から共同質問状を受領しており、いずれも日本政府として科学的根拠に基づく丁寧な回答をしており、今回は3回目。
- 今後も関係省庁等が一体となって、ALPS処理水の安全性や東電福島第一原発の状況についての情報を国際社会に対して透明性をもって丁寧に説明していく。



▲中露質問状に対する日本政府としての回答（IAEAのウェブサイト公表）

- 2023年8月22日、東京電力福島第一原子力発電所（東電福島第一原発）のALPS処理水の取扱いに関する在京外交団等向け説明会をテレビ会議形式で実施、32の国及び地域から48名が参加。同説明会は、東電福島第一原発事故以降123回目となる。
- 我が国としては、今後も関係省庁一体となって、より一層東電福島第一原発の状況についての情報を国際社会に対して透明性をもって丁寧に説明していく考えである旨の説明を行った。それに対し、出席者との間で質疑応答が行われた。

参加国及び地域

EU、アルジェリア、アルゼンチン、ウクライナ、ウルグアイ、エクアドル、オランダ、ガーナ、カナダ、韓国、クロアチア、コスタリカ、コンゴ、シンガポール、スウェーデン、スリランカ、セルビア、タイ、中国、チリ、デンマーク、ドイツ、トンガ、ニカラグア、ノルウェー、フィンランド、ブルネイ、米国、ベルギー、香港、マラウイ、マレーシア

[ホーム](#) ▶ [ニュースリリース](#) ▶ [ニュースリリースアーカイブ](#) ▶ [2023年度8月一覧](#) ▶ [東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の取扱いに関する在京外交団等向けテレビ会議説明会を開催しました](#)

東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の取扱いに関する在京外交団等向け
テレビ会議説明会を開催しました

2023年8月22日

▶ エネルギー・環境

8月22日、東京電力福島第一原子力発電所（東電福島第一原発）のALPS処理水の取扱いに関する在京外交団等向け説明会をテレビ会議形式で実施し、32の国・地域から48名が参加しました。同説明会は、東電福島第一原発事故以降123回目となります。

1. 冒頭、外務省及び経済産業省から8月22日に開催されたALPS処理水の処分に関する基本方針の着実な実行に向けた関係閣僚等会議（第6回）についてその内容や日本の今後の取組に関する説明を行い、出席者との間で質疑応答を行いました。
2. 我が国としては、今後も関係省庁一体となつて、より一層東電福島第一原発の状況についての情報を国際社会に対して透明性をもって丁寧に説明していく考えです。

[参考1] 参加国・地域

EU、アルジェリア、アルゼンチン、ウクライナ、ウルグアイ、エクアドル、オランダ、ガーナ、カナダ、韓国、クロアチア、コスタリカ、コンゴ、シンガポール、スウェーデン、スリランカ、セルビア、タイ、中国、チリ、デンマーク、ドイツ、トンガ、ニカラグア、ノルウェー、フィンランド、ブルネイ、米国、ベルギー、香港、マラウイ、マレーシア

[参考2] ALPS处理水

ALPS（多核種除去設備（Advanced Liquid Processing System））等により、トリチウム以外の放射性物質について安全に関する規制基準値を確実に下回るまで浄化した水。さらにALPS処理水は、その後十分に希釈され、トリチウムを含む全ての放射性物質について安全に関する規制基準値を大幅に下回るレベルにした上で、海洋放出されることが想定されている。



8月22日、東京電力福島第一原子力発電所（車電福島第一原発）のALPS処理水の取扱いに関する在京外資団体向け説明会をテレビ会議形式で実施し、32の国・地域から48名が参加しました。両説明会は、東電福島第一原発事故以降123回目となります。

1. 春闘、春闘直後には東電事故から、4月22日と聞かされた東京電力の汚染水、処理水が東海に漏れ出す懸念。第6回ALPS処理水の処分に関する基本方針の審議案審議に附けた関係閣僚等会議について、その内容や日本の今後の動向に関する説明を行い、出席者と質疑応答を行う。
2. ALPS処理水の放出の安全性については、政府として、こうした国際会議の開催のほか、国際会議の開催や二国間会談の機会に日本側を丁寧に説明してきており、また、政府のホームページやSNSを活用し、全世界に積極的に説明、発信を行っています。このような活動に関しては、IAEAからも肯定的な評価がされています。今後いかに透明性をもって、科学的根拠に基づいた正確な情報提供を続けていきます。

(参考1) 出席国・地域

EU、アルジェリア、アルゼンチン、ウクライナ、ウルグアイ、エクアドル、オランダ、ガーナ、カナダ、韓国、クロアチア、コスタリカ、コンゴ、シンガポール、スウェーデン、スリランカ、セルビア、タイ、中国、チリ、デンマーク、ドイツ、トンガ、ニカラガ、ノルウェー、フィンランド、ブルネイ、米連、ベルギー、香港、マラウイ、マレーシア

(参考2) ALPS処理水

ALPS（多核種除去設備（Advanced Liquid Processing System））等により、トリチウム以外の放射性物質について安全に関する規制基準値を確実に下回るまで浄化した水。さらにALPS処理水は、その後十分に希釈され、トリチウムを含む全ての放射性物質について安全に関する規制基準値を大幅に下回るレベルにした上で、海洋放出されることが想定されている。

(参考3) 別添PDF

[東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所における多核種除去設備等処理水の処分に関する基本方針（PDF）](#)

(参考4) ALPS処理水の処分に関する基本方針の着実な実行に向けた関係閣僚会議(第6回)

舊棋官部：

関係・汚染水・処理水対策関係閣僚等会議、ALPS処理水の処分に關する基本方針の適宜な実行に向けた関係閣僚等会議

ALPS処理水の処分に関する基本方針の着実な実行に向けた関係閣僚会議（第6回）配付資料一覧①

▲経済産業省プレスリリース

▲外務省プレスリリース

- 2023年8月17日から19日まで、香港コンベンション＆エキシビションセンターにおいて、香港貿易発展局（HKTD）主催の**アジア最大級の国際総合食品見本市である「香港Food Expo Pro 2023」が開催された。**
- JETROがジャパン・パビリオンを設置し、**日本からは合わせて150以上の企業や団体が出展。**初日17日のVIPツアーでは、香港の議員らも日本ブースを訪問し、出展者から日本製品の紹介を受けた。
- 34回目の開催となる今年は、コロナ以降4年ぶりのリアル開催であり、同時開催された4つの見本市を合わせた出展者は24カ国・地域から計1,800社・団体超、来場者数は延べ48万人弱となり、前年（43万人）を上回った。
- 本イベントでは、**日本出展ブースにALPS処理水の海洋放出の安全性に関するリーフレットを配布し、出展者及び香港のバイヤー向けに日本産の食材の魅力と安全性をPRしたほか、イベント開催中、ALPS処理水の海洋放出に関する問い合わせ窓口をJETROブースに設置し、出展者等からの相談の対応を行った。**

JETRO香港カウンター



「ジャパンパビリオン」の様子



- 2023年8月25日、**西村大臣と、IAEA（国際原子力機関）グロッシー事務局長とのテレビ会談が行われた。**
- 西村大臣からは、これまでのALPS処理水の安全性に関するレビュー、福島に常駐するIAEA職員による放出後の立会いや独立したモニタリングの実施、及び今後も海洋放出の安全性のレビューを継続することに対して謝意を述べるとともに、**引き続き、日本政府は、IAEAによる追加的なレビュー及びモニタリングへの関与にしっかりと対応していく旨**を述べた。
- 加えて、西村大臣から、廃炉が完遂するまで日本政府として責任を持って取り組んでいく旨述べ、引き続き、**長期にわたるIAEAからのALPS処理水の安全性確保への協力を要請**した。



▲テレビ会談をする西村経済産業大臣とグロッシー I A E A 事務局長

- 福島第一原発の廃炉に向け、**地域住民の皆様と廃炉関係者との対話の機会を提供**することを目的に、原子力損賠賠償・廃炉等支援機構（NDF）は、**福島第一廃炉国際フォーラム**を開催しており、第7回を迎える今年は「1F廃炉と地域の未来を考える」をテーマに実施され、DAY1は「地元の皆様と考える1F廃炉」をテーマに8月27日に双葉町で、DAY2は「技術専門家と考える1F廃炉」をテーマに8月28日にいわき市で開催された。
- **福島第一原子力発電所の廃炉への取組のご紹介と、パネルディスカッションが行われ**、地元の県民、大学生、高校生の方々が、廃炉実施組織等の責任者や海外の専門家と、ALPS処理水の安全性、燃料デブリの取り出し、地域経済の復興・再生、風評対策、原子力分野の将来性など廃炉に関連した様々な分野について、活発に意見交換を行った。
- 本フォーラムの様子は地元紙（福島民友、福島民報、河北新報）においても取り上げられた。

第7回廃炉国際フォーラムのロゴ



<https://ndf-forum.com/>

太田経済産業副大臣による来賓挨拶・パネルディスカッションの様子



安全確保

東京電力

- 海水中トリチウムを測定。
- 放出後 1 か月程度は、発電所から 3 km 以内の 10 地点で毎日、迅速分析を実施。

水産庁

- 水産物は年約 380 検体でトリチウムを測定
- 放出後 1 か月程度は、①放水口の北北東へ約 4 km、②放水口の南南東へ約 5 km の 2 地点で、毎日迅速分析を実施。

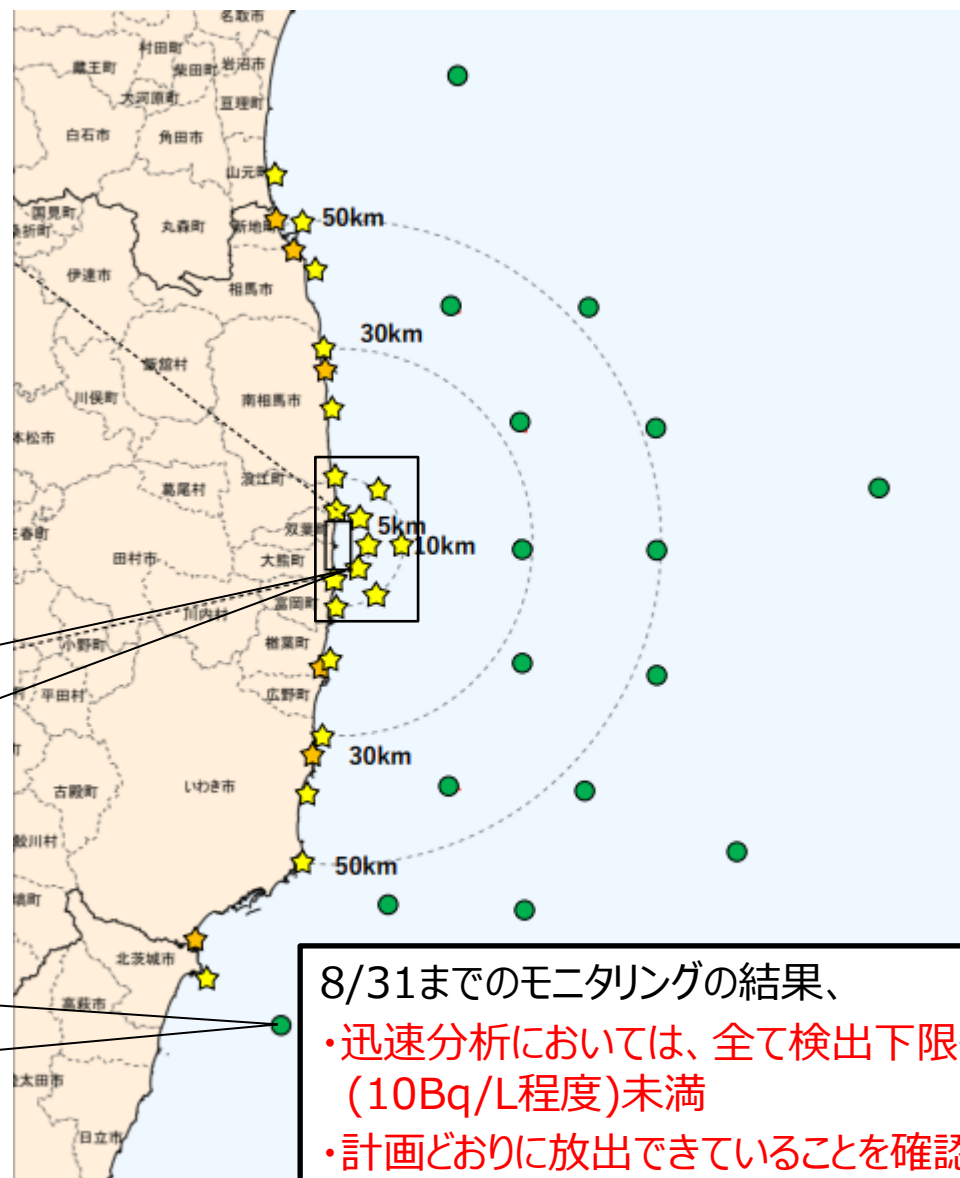
環境省

- 海水中トリチウムを測定
- 放出後当面の間、11 地点で週 1 回迅速分析を実施。
(海水浴場においても海水中トリチウムを測定) ★

原子力規制庁

- 海水中トリチウムを精密分析にて測定。
- 20km 以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。 ●

【広域図】



- 昨年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民友、河北新報、岩手日報、茨城新聞（福島民報はチラシの折込））に広告を掲載。**
- 本年8月も2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容（左上：第26回、右下：第27回）

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組をお伝えします Vol.26

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組についてお知らせします。
「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

ALPS処理水に含まれるトリチウムとは①

※Vol.05、Vol.20と同様の内容です。

自然界に水と同じ形で存在する
放射性物質です

トリチウムは三重水素と呼ばれる水素の仲間、他の水素と同じように酸素と結びつき「水」とほぼ同じ性質の液体として存在しています。

トリチウムが放射線を出すエネルギーは非常に弱いので、空気中を約5mしか進むことができます。紙1枚でさえぎることができます。

トリチウムは、宇宙空間から地球へ常に降りそそいでいる「宇宙線」と呼ばれる放射線と、地球上の空気や水がまじわることで、自然に発生します。また、国内外にある原子力施設でも、核分裂などを通じてトリチウムが生成されています。

トリチウムは、雨水や海水、飲料水などの中にも含まれており、人間や動物などの体の中にも、常に存在します。

※原子力施設由来のトリチウムは、各国が、それぞれの国の規制に基づいて管理された水で、海洋や大気などに排出しています



皆さまからの声におこたえします

- Q トリチウムは、身の周りにどのくらい存在しているのですか？
- A トリチウムは、全国の雨水や海水、飲料水の中にも、1リットルあたり0.1～数ベクレル*含まれています。また、飲料水などを通じてトリチウムを摂取することで、私たちの体内にも数十ベクレルほどのトリチウムが常に存在しています。トリチウムを含む水分子は通常の水分子と同じ性質を持つため、水と同じように体外へ排出され、体内で蓄積されないことが確認されています。

※放射性物質がどのくらい放射線を出す能力があるかを表す単位



出典：食品と放射線Q&A 消費者庁資料などから作成
https://www.csa.go.jp/riksaker/ner/qa/understanding_food_and_radiation/material/assets/consumer_safety_cms203_220728_1.pdf

広告

ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
▶「処理水ポータルサイト」
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water-treatment/

トリチウムの科学的性質等を解説しています
▶「トリチウムについて」
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water-treatment/images/tritium.html

福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶「皆さまのご意見をお聞かせください」
https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html

T:

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組をお伝えします Vol.27

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組についてお知らせします。
「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

ALPS処理水に含まれるトリチウムとは②

※Vol.06、Vol.21と同様の内容です。

トリチウムが放射線を出すエネルギーは
非常に弱いです

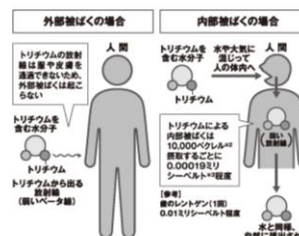
人が放射線を受けることを「被ばく」と言います。体の外から放射線を受ける「外部被ばく」と、体の中に取り込んだ放射性物質から放射線を受ける「内部被ばく」の2種類があります。

トリチウムは、放射線のエネルギーが弱く、皮膚を透れないため、外部被ばくによる影響はほとんどないと考えられています。

また、トリチウムは水素の仲間、酸素と結びついたときに通常の水とほぼ同じ性質を持つため、トリチウムを含む水が体内に入った場合には、尿や汗、呼吸などによって体外へ排出され、体内で蓄積・濃縮されることが確認されています。

体内に入ったトリチウムを含む水は、10日程度で半分以上が体外へ排出され、体内の有機物の水素原子と置き換わったトリチウム(有機結合型)についても、多くは40日程度で排出されます**。

※1 一部は排出されるまで1年程度かかります ※2 放射性物質がどのくらい放射線を出す能力があるかを表す単位 ※3 放射線が人体に与える影響の大きさを表す単位



皆さまからの声におこたえします

- Q トリチウムは人体にどのくらい影響がありますか？
- A トリチウムは、水と同じように体外へ排出され、体内で蓄積・濃縮されることが確認されています。また、他の放射性物質と比べて、人体への影響は低いとされています。トリチウムの人体への影響は、食品中の放射性物質の基準値が設定されているセシウム137と比較すると約700分の1です。

トリチウムと他の放射性物質との比較
(口から体内に取り込んだ場合)

広告

ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
▶「処理水ポータルサイト」
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water-treatment/

トリチウムの科学的性質等を解説しています
▶「トリチウムについて」
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water-treatment/images/tritium.html

福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶「皆さまのご意見をお聞かせください」
https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所
〒979-1301 福島県福島市大崎(大学芋)地区2-22